

<週報No. 2,903> 3,014 回例会

2019年11月15日(金)

■会長／玉本 広人 ■幹事／山田 文雄

◆司会＝八幡一成 SAA

◆ゲストビジター＝諏訪市教育委員会事務局

総務課長 柳平 直章 様

居郁指導主事 岩波 均 様

◆出席報告

本 日	58.33 %	20名欠席
前 回	82.97 %	9名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.19 平林 明君

◆ニコニコボックス ●玉本広人君、山田文雄君＝諏訪市教育総務課柳平様・岩波様、本日は宜しくお願ひします。●小平直史君・河田康幸君＝バスハイクへのご参加ありがとうございました。米山記念館でロータリーの神髓にふれることができました。●河田康幸君＝結婚記念日にお花を頂戴しまして。●小針哲郎君＝諏訪市教育総務課、柳平課長様、岩波様本日宜しくお願ひ致します。●岩波寿亮君＝教育委員会のお二人、今日はようこそ、宜しくお願ひします。●橋詰将慎君＝今月、結婚(再婚)しました。

◆会長告知・玉本広人会長＝日曜日のバスハイクは、とても良い天気恵まれ、日本のロータリーの祖米山梅吉を顕彰する米山梅吉記念館を訪れロータリーの神髓に触れてまいりました。そして美味しい料理を味わい三島大社や沼津港の深海水族館、飲食店街などをめぐり、もう一つのロータリーの神髓である親睦も深めてまいりました。ご参加いただいた皆さん、親睦委員会の皆さんありがとうございました。米山梅吉記念館では、三島 RC の浅倉様にご案内をいただき、まず米山梅吉のお墓参りをし、その後説明を聞きながら館内の展示を見学させていただきました。館内見学のはじめに、3つの〇×クイズが出されました。第1問、米山梅吉は東京生まれである。第2問、米山梅吉はポールハリスと同年である。第3問、米山梅吉は日本で最初のロータリアンである。答えは〇〇×です。私は3つとも不正解で不勉強を恥じております。米山梅吉は、ポールハリスと同じ年1868年(慶応4年)東京で生まれています。当時は和田という姓で

した。4歳の時父竹造がなくなり、止むなく母の郷里三島に母とともに移り住みました。梅吉は幼い時から神童といわれた英才であったそうです。明治20年に三島の名家である米山家に養子として入り、明治29年には、米山家の一人娘はると結婚しました。

3問目ですが、では日本人初のロータリアンはだれかと言いますと、福島喜三次(きそじ)という方です。佐賀県有田出身で1881年生まれ。三井物産に勤め、1905年に渡米、1915年にダラスRCに入会。1918年に米山梅吉とダラスで会いロータリーを紹介したようです。福島は1920年に帰国し米山梅吉とともに東京RC創立に尽力しました。その後大阪転勤により1923年、大阪RC創立会員ともなりました。この年に関東大震災が発生し、彼はクラブ幹事として、世界の各クラブからの救援物資を東京へ輸送するなど、大活躍したとのことでした。

米山梅吉記念館建設は、当初米山梅吉終焉の場所である米山梅吉の別邸の保存運動として始まりました。米山梅吉の死後、別邸が不動産会社によって分譲されることになり、周辺の沼津・沼津北・三島・伊豆長岡(現伊豆中央)の近隣ロータリークラブの会員何人かが米山別邸保存の動きをはじめました。なんとか、この由緒ある家屋敷を手に入れ、ロータリアンのための保存をしようというものでした。しかし金銭的な問題と、分譲も進んでしまったことから、米山梅吉の本邸宅の土地に記念館を建てるよう方針転換がされました。米山本邸は、米山家先祖伝来のもので、およそ1000坪の広さ。米山梅吉の遺骨が分骨されている米山家の墓地もすぐ近くで、当時より残されていた長屋門は現在の記念館にも残されています。

この記念館は米山奨学会とは全く別組織で運営されており、すべてロータリアンの寄付によって支えられているとのことでした。今回ご案内をしてくださいました三島 RC の浅倉様もそうですが、周辺のロータリー会員がボランティアで来館者の案内などしていただいています。私も入口にありました寄付箱に些少ながら入れてまいりました。皆様もぜひご寄付をいただければと思います。

さて先日ふるさと学習関連図書の寄贈を行いました。本日は諏訪市教育総務課 柳平さん、岩波さんにふるさと学習についてのお話をいただけるとのことでした。よろしくお願ひいたします。

◆幹事報告・山田文雄幹事＝①11月1日の理事会に付きましては、特に報告する事項ありません。②10日のバスハイク家族例会は米山梅吉記念館を訪問しました。HPを見ますと前日には東京 RC、翌々日には静岡の RC とロータリークラブの訪問が週 2 回位のペースであります。当日は三島ロータリークラブから 2 名がボランティアガイドを担当してくれていて、米山梅吉のお墓詣りに案内してくれました。近くの 5 クラブが交代でボランティアガイドを行っているとの事で、頭が下がります。常設の係の方には、梅吉の生い立ちを中心に 30 分位の解説をして頂きました。今回の参加者は秋山慶太郎君を含め 15 名でした。参加された方は、大変お疲れ様でした。御礼を申し上げます。③ 2600 地区より連絡が 2 件あります。1) 2019 年度版手続き要覧は MyRotary から入手できることは前回例会でお話しましたが、冊子としても入手できます。必要な方は 1 冊 10 ドル (1080 円) を添えて事務局宛お申込み下さい。尚、11 月のロータリーレートは変化なく、1 ドル 108 円です。2) 台風 19 号被害に対する義捐金です。当クラブも協力したいと思います。籠を回しますので、御一人 2000 円以上でお願いします。④本日は社会奉仕委員会担当のクラブフォーラムです。小針委員長宜しく申し上げます。⑤来週 22 日金曜日は準法定休日として例会はお休みです。⑥29 日金曜日第 3015 回例会は、プログラム委員会担当のクラブフォーラムです。私は不在させて頂きますが、伊藤委員長、宜しく申し上げます。

◆委員会報告ロータリー情報・三井章義君＝米山記念館に行っていたいてありがとうございます。

大事な事は会長が話してくれました。

ロータリー友の会 11 月号の、創立 50 周年記念式典開催を見ていただきますと米山記念館について詳しく書いてありますので読んでいただければと思います。この記念館が建てられたのは、米山さんが晩年に過ごした別邸ではなく、幼少に過ごした本邸が記念館になりました。359 地区をはじめ、全国のロータリアンの他、梅吉が創設した三井信託会社やその OB から多額の寄付が寄せられて、本邸の跡に完成することができた。新館が建てられた時に地元の山梨と静岡で 1 口 1 万円以上の寄付を募った上で全国のロータリアンに協力を呼びかけ完成に至りました。地区の人達が運営に携わっております。米山奨学会とは別のもので

あります。米山記念館は運営に大変苦しんでおります。米山奨学会としては毎年補助金を 300 万円出しております。みなさんで記念館を盛り上げて下さい。

◆クラブフォーラム社会奉仕委員会・小針哲郎委員長＝こんにちは今日はゲストの方をお迎えしておりますが、その前に先日 30 日水曜日ですが、諏訪中学校に図書贈呈式を行ってまいりました。約 10 名のメンバーと共に諏訪中学校に納めてきました。諏訪学の本 40 冊、諏訪の文化を伝える紙芝居 18 冊、ふるさと学習に役立つ本 87 冊を渡してきたという次第です。諏訪中学 1 年生の生徒達から諏訪学習、ふるさと学習の発表があり、諏訪湖プロジェクトの河西さん、小平さんの奥さんの小平陽子さんが紙芝居のイラストレーターということで、その二人による活動、諏訪湖学習への取り組みを 10 月 30 日に済ませてきた事を報告申し上げます。その時にアテンドしていただきましたのが諏訪教育総務課さんでありまして今日は柳平課長と岩波さんをお迎えして、資料を 2 部用意させていただきました。この後お二人にお藩士をいただきたいと思っております。



◆ゲストビジター教育指導主事・岩波 均様＝みなさんこんにちは本日はこのような買いに貴重なお時間をいただきまして諏訪市の教育行政で諏訪市の取り組んでいること等ご説明させていただける機会を設けさせていただきましたありがとうございます。市内の小学校に図書と中学校にはデジタルカメラをご寄贈いただきました。諏訪市で行っているふるさと学習柱とします、ものづくり教育に活用させていただきたいと思っております。大変ありがとうございました。諏訪市で取り組んでいる内容をご説明させていただきます。

「相手意識に立つものづくり」学習の実践

「相手意識に立つものづくり」学習のねらい児童・生徒の学習については、知識習得に終らずに知識を知恵に変えて、応用実践できる「生きる力」を育むことが重要になってきています。「相手意識に立つものづくり」学習のねらいは、ものづくりを活用しながら、子供たちが相手（使う人）への思いを基に、知識を活用する力（知恵）をものづくりの実体験を通して身に付けることです。さらに相手意識に立つものづくりを通して、ものづくりや働くことの意義・面白さを理解し、将来、社会で生かすことのできる内容を身に付けていくものです。「相手意識に立つものづくり」学習は、これまでの製作そのものを中心としたものづくり学習に、「だれ」に対して「何を」作ってあげるのかを明確にした「他者への思いやりの心の学習」を加えたものです。このような学習を通して豊かな心情を培うとともに社会で働く意義や地域産業を担おうとする意欲等を醸成したいものです。

「ふるさと学習」の実践

～なぜ「ふるさと学習」なのか？～

郷土や伝統などを尊重することとして教育基本法や学校教育法に於いても目標の一つとして掲げられている郷土・ふるさとは、本来、子どもたちにとって単に、「自分の生まれ育った地」というだけでなく、「自己を形成する基盤を作り出す」重要な地でもあります。しかし、現在、多くの市町村では若者が進学や就職により郷里を一時離れた後、再び郷里に戻ってこないという問題を抱えています。このことは、諏訪市も決して例外ではありません。その原因の一つとして、郷里・ふるさとに対する愛着や誇りがなくなまま離れてしまうと、郷里・ふるさとに魅力を感じず再帰する可能性が小さいためと考えられます。こうしたことは、その地域の人口減少や更には、いろいろな面で地域の衰退につながってきます。そうした憂いの反面、例え帰郷したくとも諸々の理由でかなわない人にとっても、諏訪を忘れず諏訪で得たことが土台となり各方面で活躍してほしいと願っています。したがって、郷土・ふるさとについて学習することは、郷土の良さや伝統文化、人々の郷土に対する思いを知り、子どもたちに郷土に対する愛着や誇り、自信、そして諏訪を通して将来への夢を持たせることに役立つはずで、子どもたちに、郷土・ふるさとを「人・もの・こと」を通してかかわらせることにより、ふるさとに対する思

いや願い、そして未来への夢が、地域から大人に、大人から子どもに、そしてまたその子どもへと受け継がれていくはずで、そこに、ふるさと学習の価値と意義があると考えます。

ふるさと学習の趣旨「すわっこ学習」〈小学校〉・「諏訪学」〈中学校〉

諏訪に生まれ諏訪に育った児童生徒が、ふるさと諏訪を愛し郷土の姿を誇りに思い、広く世界を視野に生涯にわたって学び続けるための素地を作るとともに、郷土諏訪の「ひと・もの・こと」に広くかかわる素材を教材とした体験的総合的な学びを新たに創造することにより、豊かな感性と総合的な「生きる力」を育てる。豊かな力と豊かな心を持った世界に通じる諏訪人を育てる「ふるさと学習」《キャッチフレーズ》

” 諏訪から世界が見える”

” 諏訪の窓から日本を見る”

◆ゲストビジター教育総務課長・柳平直章様

諏訪ロータリークラブ様におきましては古屋様が先月の10月12日まで教育委員をさせていただいておりました。10月13日からは玉本様が新たに教育委員として教育行政に深く関わっていただいております。引き続き宜しく願いいたします。

未来創造「ゆめスクールプラン」基本計画策定の趣旨全国的に少子高齢化が進むなか、諏訪市では諏訪市立小中学校のあり方検討委員会による「諏訪市立小中学校のあり方に関する提言書」、諏訪市立小中学校再編基本構想検討委員会の設置を経て、平成30年3月に市内全体として施設一体型小中一貫教育学校（義務教育学校）を3校配置する基本構想が示されました。

学習のダイナミズムを確保し、子どもの豊かで健全な成長を支えるためには、小集団や個に応じた指導ができる体制と大きな集団の中でたくましく育っていく環境を整えることが大きな課題となってきました。

小中一貫教育は集団の中で子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、努力することを通して一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことを可能とする重要な特質を持っています。本市の子どもたちにとって望ましい教育環境を整えるため、取り巻く環境の変化等を踏まえつつ、学習活動の一層の活性化が図られるよう将来を見通した学校の具体的なビジョンを示すことを目的として本計画をつくりました。小中一貫教育学校（義務教育学校）とは？

一人の校長の下で教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う形態の学校です。異年齢集団の関わりの中で育つ多様な人間関係と心の育ちが期待できます。系統性を明確にした小中9年間の教育課程ができます。新たな夢のある学校づくりが地域づくり・まちづくりにつながります。

計画の骨子

小中一貫教育を前提とした教育課程を推進する学校づくりに取り組んでいきます。児童生徒の多様な学びや諸活動を可能にする教育環境の整備を行うとともに、一定の学校規模（適正規模）を確保することを重点とする学校再編事業を推進します。小中一貫の教育課程の編成については、2019年度の準備期間から開始しこれまでの小中連携教育の成果に立って、骨子の編成から細部の編成へと時間をかけてさらなる実践を重ねながら進めます。児童生徒、保護者や地域住民の声を大事にし、共通理解を図りながら進めていきます。小中一貫教育を視野に入れた環境整備の日程や方向を中心に示しています。教育課程、教育活動、整備する教育環境などの内容については、今後の推進委員会の中で整備していくものとします。

◆今後の例会日程

11月22日	金	準法定休日
11月29日	金	クラブフォーラム・会員卓話
12月6日	金	クラブフォーラム・2019年を振り返って